

光栄の森

平成24年3月 毎月1回発行 第45号

発行者 光栄プロテック 重延

今期最後の月を迎えるにあたり

代表取締役 三田雅憲

今年の冬、各地では例年以上の厳冬と大雪に見舞われているそうです。雪の事故も多く報じられ、あまり雪の被害を受けない私どもは本当に幸せであると感じております。皆様のご家庭ではお変わりないでしょうか。インフルエンザなども注意して下さい。3月は、会社の総決算の月となります。皆で力を合わせて良い結果が出るように共に努力していきましょう。

当社のホームページの社長ブログにも詳しく書いたのですが、2月17日にある新規のお客様と会ってお話を聞く機会をいただきました。いろいろな言葉の中で、『人はしっかり目標設定をしてあきらめず、それをやり遂げることがいかに大切であるか』という事を強調しておられました。そういえば、目標設定をしっかりしている人やこんな人間になりたいという明確な目的意識を持っている方ほどその夢を現実にされているように思えます。先日の東京マラソンにおいて、日本人で2位に入られた藤原さんが、『自分のマラソンに対するモチベーションの高さはオリンピックに出場したいという一念である。』と話しておられました。昨年、所属していた実業団をやめ、スポンサー契約もうまくいかず、精神的にも厳しい状況に立たされたのですが、それを乗り越えここまで来れたこともその気持ちの強さに尽きることを話しておられました。もちろん見えない部分では、ご結婚された奥様の並々ならぬサポートもあったとは思いますが、いずれにしても本人の強い気持ちが人間をここまで奮い立たせるのであると感じました。

昨日テレビで、東北大震災での津波によって店を流された商店主たちが、仮設商店街の復興に尽力していく姿とそれを支えたある商店主(この方も17年前に神戸で震災を受け同じように店を失い再建を果たした)との心の交流が放送されていました。『自分の店を再開する』という気持ちの前に資金の面や心の面で何度も何度も折れそうになる46歳の若い蕎麦屋の店主に対して、その神戸の商店主は『弟よ』と励まし、あるときは一緒に涙し、そして一緒に考えている姿を見て目頭が熱くなるのを感じました。『心が折れてしまったら終わりなんや。心細くなると人の気持ちは揺れ動く。折ってしまわないように周りがしっかりと支えてやらんとあかん。』『一生懸命やれば必ず支えてくれる人が出てくるよ。あきらめてはいかんで。』『資金の悩みは復興してからもずっと付き纏う。その覚悟はいつでも持つときや。』『笑顔やで。笑顔でお客さんと接しや。』と繰り返し話しておられました。

資金面での頼みの綱である国からの補助金は、その組合が仮設商店街という理由で受理されず、資金面で大変厳しい思いをされましたが、この話を聞いたある企業や支援者が仮設や空調設備の無償提供を申し出てくれたという話もされていました。

仮設商店街のオープン当日、雪の降る中盛況に人々で賑わい、蕎麦屋の店主も一生懸命蕎麦をつくっている姿を映してこのテレビは終わりました。試練はこれからも続くでしょう。しかし当社もそうですが、製造業・工業塗装は衰退産業だといってしまうのは簡単ですが、ではどうしたら繁盛店になるかを皆で考え協力していくことが本当に大切ではないかと思います。世の中がどんどん変わっていくのは事実です。しかしその中でお客様に最良なサービスを提供ししっかりと守っていく会社へ皆でなっていこうと心から願っています。